

佳作

わたしのお家のレモンの木

鹿児島県 鹿児島市立広木小学校三年 坂野 めいり

「バイバイ。」

「また会おうね。」

わたしは、アゲハチョウのよう虫をそだてて今年で二年目。その中で、いつもこまることがある。それは、えさがないことだ。アゲハチョウは、レモンの葉っぱをえさにするが、わたしの家には、レモンの木がない。そこで今年は、レモンの木を買うことにした。これで安心してそだてられると思った。

レモンの木をにわにおいて三日後、葉っぱをよく見てみると、ニミリくらいの小さくて丸くて、きれいな黄色のつぶを見つけた。まちがいにアゲハチョウのたまごだと分かった。チョウになるのが楽しみだな。

ある日、レモンの木に白い花がさいた。それを見たお母さんが、

「すっごくいいにおいがする。」

きくなっていった。いきおいよく食べるよう虫を見て、

「早くさなぎになってくれえ。」

お母さんが言った。レモンの木を見ると、葉っぱが少なくなっていたのだ。

それからよう虫は、さなぎになり、チョウになった。黒い羽に黄色いしまもようがついたナミアゲハ。羽を広げると、わたしの手の平より大きかった。多いときには十ぴきい上のよう虫に葉っぱをあげていた。チョウがとび立ったびに、レモンの木の葉はなくなり、えだだけになっていった。全部のチョウがとび立つころ、レモンの木にはまたやさしい黄緑色の葉っぱが出てきた。

「また来年も、うちのレモンの葉を食べに来ていいからね。」

と教えてくれた。わたしもかいでみると、あまくてやさしいにおいがした。それから、にわのレモンには、何びきもアゲハチョウがとんでくるようになった。

「チョウにも、レモンの花のにおいが分かるんだね。」

とお母さんと話していると、大きなアゲハがとんできて、レモンの葉っぱにとまった。じっと見ていると、おしりを葉っぱにちよんちよんつけていた。

「たまごをうんでるんじゃない。」

「しいっ。」

チョウがとんでいったあとの葉っぱには、あの黄色いつぶがあった。家ぞくみんなで楽しみにかんさつをしていたとき、わたしは見つけてしまった。せっかくだと運ぶくれたのに。そこには小さい体で大きなたまごを運ぶありがたいのだ。はちの近くにはありのすがあり、ありのたまごにまぎって、黄色いつぶが見えた。外の木でそだてるのはむずかしいと思ったので、虫かごにたまごをうつして大事にそだてることにした。たまごは黒いよう虫になった。毎日とれたての葉っぱをあげた。緑色のよう虫になって、大きくなるにつれて、葉っぱを食べるりようもふえた。バリバリ、バリバリ。食べるスピードも音も大